

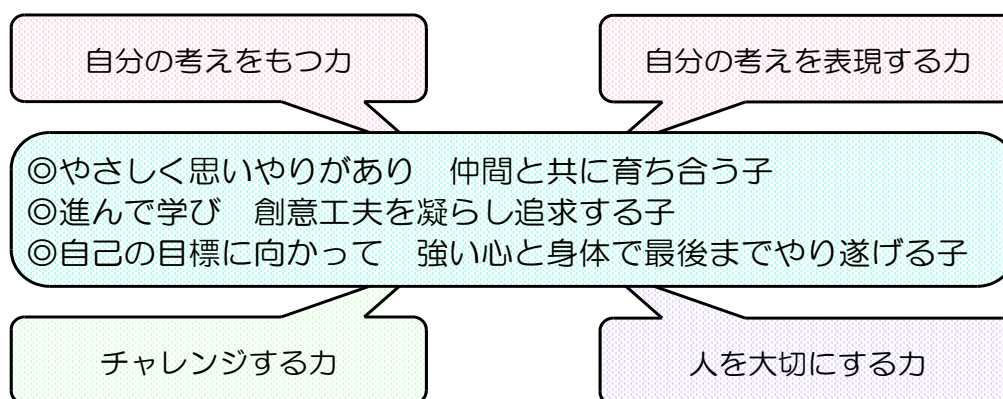
# 令和6年度「東小の研究」推進計画

## 1「東小の研究」推進の方針

- これまでの学校研究・校内研修の財産を生かし、主体的・対話的で深い学び等で、学ぶ意欲と確かな学力をはぐくむ授業改善を中心に、授業力を高め合う共同研究の推進に取り組む。
- 授業づくり(教務部)・子ども理解(指導部)に対する課題意識をもとに、日常的な校内研修による指導力の向上を進める。
- 教育活動に関わる環境の変化に対応しながら、学校研究・校内研修の充実を進める。

<本年度の重点目標を達成するための教育活動の具体策>

### ◆本年度の重点目標



推進の重点	重点の具体的方策	評価の観点
<b>優しく思いやりがあり仲間と共に育ち合う子ども</b>		
○分掌・ブロック間で連携し、子ども観・指導観を学び合う日常的な校内研修を推進する。	○ミニ研修、実技研修、ブロック研修等、教職員一人ひとりのニーズに応える研修活動を展開する。	○時季やニーズに合わせて適切に研修活動を設定し学び合う工夫ができたか。
<b>進んで学び、創意工夫を凝らし追求する子ども</b>		
○学校研究を土台として、日常的な授業の改善に努める。	○研究構造図をもとにした機能的な学校研究を進める。	○研究内容に沿って研修を進め、節目ごとに成果と課題をまとめることができたか。
<b>自己の目標に向かって強い心と身体で最後までやり遂げる子ども</b>		
○ブロックとの連携を深め、確かな学力の育成のありかたについての学びを通して、基礎学力の向上に努める。	○ベルト・宿題、読書の意味を教師間で共通にして、めざす子ども像の実現を図る。 ○各種調査の結果を考察し、基礎学力の向上に生かす。	○学年経営案「めざす子ども像」の具体化をもとに、基礎学力について検討し改善に着手することができたか。 ○各種調査の結果と日常の授業づくりを結び付けることができるよう、考察などの発信ができたか。

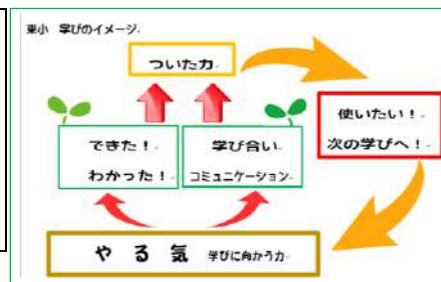
## 2 令和6年度の学校研究について

学校研究主題「確かな学力を育てる」は、副主題を変えながら2009（平成21）年度から取り組まれているものです。2009年度の研修部資料に「確かな学力」の説明として次のように書かれています。

ここでいう「確かな学力」とは、読み書き計算といった「狭義の学力」や、単なる知識量の多さを競うものではなく、「学びに向かう力」「学ぶ力」「学んだ力」といったものに代表される、いわゆる「広義の学力」を指しています。

この研究主題は、「子どもは仲間の中で学び、教師はその学び、学び合いを支える」ということを大切にしながらも、子ども達の「基礎基本の確かな定着」や「学んだ力を活用する力」を育む難しさから生まれたものでした<sup>1</sup>。2009年度以降、東小では「学ぶ」ということを次のように整理してきました。

「**学びに向かう力**」…学びに向かう土台としての「**学びへの要求**」  
「**学ぶ力**」…「**わかるーできるー使える**」という「**学びの持続性**」  
「**学んだ力**」…「**学習の結果身に付いたこと**」、定着した力  
「**学び合う力**」…協働の学習としての「**学びのコミュニケーション**」  
「**次の学びにつなげる力**」…組み合わせて使いこなせる「**学びの応用**」



令和5年度は、1年生活・2年算数・3年算数・5年算数・6年音楽・特支自立の授業研究、及び評価についての学び合いを通し、以下の成果を導き出すことができました。

- 1：評価を意識した授業づくりをすることで身に付ける力を明確にするという改善の視点
  - 2：個別最適な学びの観点と、推進していく必要性
  - 3：効果的なデジタルの活用法及びアナログとのバランス
  - 4：単元を見通してバランスよく評価する必要の共通理解とカリキュラムマネジメントの視点
- これらについての理解が深まり、日常的に評価を意識した授業づくりが推進されました。

一方で、

- ①学校全体として各学年で付けたい力を明確化する必要があること
  - ②児童が身に付けるべき力を確実に付けるための指導法を追求する必要があること
  - ③1～4についての学びをさらに深める必要性があること
- が、反省として上がりました。

そこで令和6年度は「思考し、表現する力の育成」を副題とし、研究を進めます。

これまでの副主題です。

2009～2011	豊かな学びのある授業づくりを通して
2011～2012	算数科における関わりあって学ぶ授業を求めて
2013～2014	豊かな思考と関わりある授業づくりを通して
2015	主体的に学ぶ子を育てる授業のあり方
2016～2017	主体的に学ぶ子をはぐくむ“自分ごと”学習のあり方
2018	対話的で深い学びを実感できる授業づくり
2019	どの子にも力をつけるための「展開」の工夫
2020	単元・題材を見通した授業づくりの工夫
2021～2022	国語・算数の授業づくりにおける学習過程の工夫

〔学校研究構造図〕

学校教育目標

- ◎やさしく思いやりがあり 仲間と共に育ち合う子
- ◎進んで学び 創意工夫を凝らし追求する子
- ◎自己の目標に向かって 強い心と身体で最後までやり遂げる子

研究主題

**確かな学力を育てる**  
～思考し、表現する力の育成～

研究内容

○自分の考えをもち、\*表現する力を高めるための具体的な手立てについて、研究する。

\*今年度は言語活動に関わるものとする。

○思考し、表現する力について各学年のめざす具体的な姿を明確にする。

○実践事例を蓄積し、共有する。

3 校内研修の推進について

学校研究と並行し、教務部・指導部・ICT チーム、そのほか全職員で連携しながら東小学校の研究を推進する。

大区分・中区分		研 修 業 務 内 容	
研修計画全般		研修全体計画	「東小の研究」推進計画、各種研修の企画・推進
学 校 研 究		理 論 研 究	研究主題の具体化と具体的な提起
		授 業 研 究	「確かな学力を育てる」実践のための研究・学び合い
校 内 研 修	現職研修	各 種 講 座	日常的な学び合いの場の設定、企画・推進 指導部による実践講座など
		特 別 支 援	特別支援教育に関わる研修の企画・推進
		ICT/GIGAスクール	ICT 活用に関わる研修の企画・推進 (ICT チームとの連携)
		記 録 ・ 集 約	「学ぶ門には福来る」の発行、研究のあゆみを振り返る取り組み
	研修事務	研 究 図 書	研究図書の購入、資料収集
		研 修 旅 費	研修旅費執行に関わる計画づくり
基 礎 学 力		基礎学力（ベルト・宿題）	
		調 査 ・ 研 究	
		学習意欲・学習状況アンケート チャレンジテストやCRTの活用	
校 外 研 修		各 種 研 究 会	各種研究会実施要項の案内
		稚 教 研 学 校 代 表	学校代表者会議への参加
		市 教 育 研 究 所	学校代表の参加

#### 4 令和6年度 研修計画について

日にち		学校研究	校内研修
4月8日	月		アレルギー等保健関係*指導部
11日	木	今年度の研究について	L-Gate*教務
15日	月	今年度の授業研・参観懇談の進め方	
23日	火	全国学力学習状況調査分析	
5月20日	月	各学年「表現」・新旧教科書	
29日	水		体力づくり研修（潮小澤T講師）
6月3日	月		学級経営*指導部
19日	水	指導案検討	
7月2日	火	指導案検討	
8日	月	指導案検討	
16日	火	低 模擬授業	
18日	木	低学年研究授業(定例報告会)事後研	
23日	火		所見の書き方*教務
8月23日	金		児童理解研修*指導部
9月17日	火	全国学力学習状況調査結果分析	
30日	月		「先生方に学ぶ」
10月22日	火	指導案検討	
30日	月	指導案検討	
11月6日	火	指導案検討	
11日	月	高 模擬授業	
14日	木	高学年研究授業（定例報告会）事後研	
12月2日	月		「先生方に学ぶ」
9日	月	「思考し表現する」とは	
16日	月	授業交流（12/9～13）まとめ	
1月14日	火		児童理解研修 *指導部
27日	月	CRT 分析	
2月17日	月	研究のまとめ	

学校研究	校内研修
<ul style="list-style-type: none"> <li>・めざす姿の明確化</li> <li>・ゴールに向かう手立て</li> <li>・授業研究での検証 改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救命救急関係</li> <li>・ICT 関連（L-Gate 等）</li> <li>・体力向上</li> <li>・生徒指導関連</li> </ul>

その他 要望に応じてミニ研修などを企画する。

\*ゴールの明確化⇒1 学期早いうちに研修で一般的なものを持ち寄って明確に。